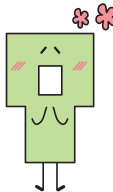


中山古墳群を歩こう ～弘法山の周辺は古墳の宝庫～

弘法山古墳の周辺には東西約2.5km、南北約3kmの範囲に、7世紀に至るまでの古墳が数多く分布しており、この地では長い間古墳がつくられ続けていたことがわかります。その多くは6世紀以降の後期古墳ですが、かつて棺護山（かごやま）にあった中山36号墳では六獣文鏡や東海系の土器が出土したことなどから、弘法山古墳と同じ前期の古墳とみられています。



- お願い**
- ① たばこや火気の取り扱いにご遠慮ください。
 - ② ごみは捨てずに持ち帰りましょう。
 - ③ 遺構保護のため、園路以外の斜面には立ち入らないでください。

貴重な文化財である古墳を大切に
美しいすがたで未来へ伝えていきましょう

3世紀の王の墓と絶景が楽しめる！ 弘法山古墳への行き方

所在地
〒390-0825
松本市並柳2丁目1000番

交通案内
松本ICから車で20分
J R 松本駅からタクシーで10分
J R 松本駅からバスで15分
(並柳団地線:「弘法山入口」下車
⇒徒歩10分)

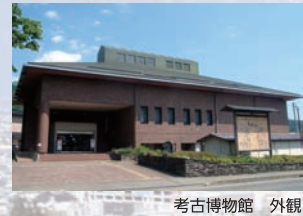


出土品の見学は 松本市立考古博物館へ

所在地
〒390-0823
松本市中山3738-1
TEL 0263-86-4710

交通案内
J R 松本駅から
コミュニティバス 中山線 (平日のみ運行)
「中山霊園口」もしくは「考古博物館前」
(金曜日のみ) 下車
弘法山古墳から3km (徒歩約30～40分、車約5分)

利用案内
開館時間: 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
休館日: 3月～11月 月曜日 (月曜日が祝日の場合はその翌日)
12月～2月 平日、年末年始
入館料: 大人 (高校生以上) 200円 [20名以上の団体料金は150円]
中学生以下は無料



案内地図



新緑の季節もとても
きれいでおすすめです!

お問い合わせ
松本市教育委員会 文化財課
TEL 0263-34-3292 (大手事務所)
0263-85-7064 (中山事務所)
松本のたから で検索

史跡 弘法山古墳



古代の王も臨んだ、
絶景がここに。

『全国的に注目される 前方後方墳 弘法山古墳』

弘法山古墳は、松本市東部にある中山丘陵の北端部、標高652mの尾根上に立地する古墳で、築造年代は古墳出現期である西暦3世紀末ごろと推定されています。墳丘上からは北アルプスを背景に松本平を一望でき、かつてこの地を治めた人物の国見ヶ丘にふさわしい立地といえます。

昭和49年に発掘調査をした結果、東日本最古級の前方後方墳であることがわかり、昭和51年、国史跡に指定されました。4世紀以降、善光寺平を中心に前方後円墳がつくられるようになりますが、3世紀の前方後方墳である弘法山古墳はその前段階の科野(シナノ)の国の情勢を知る貴重な存在といえます。出土品は平成5年に県宝に指定され、近くの松本市立考古博物館で見学することができます。

昭和57年に史跡公園として整備され、桜の名所としても知られるようになりましたが、全国的に古墳の研究が深まり、弘法山古墳は再び脚光を浴びています。このような経緯をふまえて、松本市教育委員会では、令和元年度から史跡弘法山古墳の再整備事業に着手しています。

弘法山古墳の墳丘



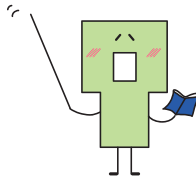
【国指定史跡 弘法山古墳】

古墳の形…前方後方墳 築造年代…3世紀末

墳丘長(全長): 約66m

後方部: 長さ約41m 幅約47m 高さ約7.2m

前方部: 長さ約25m 幅約22m 高さ約3.5m



▲河原石でつくられた
竪穴式石室状の礫塚



▲埋葬施設は石敷きの1m下に保存

埋葬施設

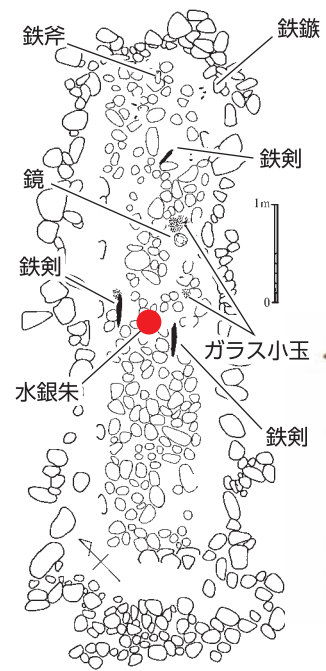
発掘調査では、後方部の中央、主軸とほぼ直交する東西方向に長さ5.5m、幅1.32m、深さ93cmの竪穴式石室状の礫塚(れきかく)が見つかりました。松本平に集まるいくつもの川から運んだ河原石を多く用いた特徴的なつくりで、天井石はありません。そして、副葬品の出土状況から、遺骸は礫塚内のほぼ中央に安置されたと考えられています。

副葬品

礫塚内からは鏡や装身具、武器、工具などの副葬品が見つっています。具体的には獣帯鏡1面、鉄剣3点、銅鏃1点、鉄鏃24点、鉄斧1点、ヤリガンナ1点、ガラス小玉700点以上が出土しています。特に鏡と鉄斧は遺骸の頭部付近に置かれていたとみられます。また、遺骸の腰の部分にあたるところからは水銀朱も見つっています。



副葬品の配置



獣帯鏡とガラス小玉
「上方作竟自有□青□左白厝居右」の
銘文がみられます



鉄器(剣、斧、ヤリガンナ)
鉄剣は槍の可能性もあります

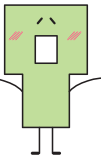


銅鏃
(約6cm)

遺物出土状態図

出土した土器と被葬者

弘法山古墳では、後方部の礫塚直上から、底部に孔(あな)を開けた壺をはじめ、高杯・手焙(てあぶり)形土器などの土器器(はじき)がまとまって出土しました。



これらの土器は東海地方の様式と共通する特徴がみられることから、被葬者は同地方と深いかわりがあった人物と推測されます。

また、古墳の西方にある出川西遺跡(南松本駅周辺)からも同様な土器が多数出土していることから、古墳をつくった人びとの拠点となった集落のひとつだったと考えられます。

